

地 域 の 安 心 を 支 え る



特集—那須赤十字病院

栃木県県北エリアで医療の中核を成していた大田原赤十字病院は、拡大する医療ニーズに対応するため、拡充計画に伴って移転し、2012年に那須赤十字病院として開院した。

スタッフの強い使命感と、充分に整えられた医療設備を強みに、地域に高水準の医療を提供している。



心配りに満ちた病院

那須赤十字病院の基本理念は「マイタウン・マイホスピタル」である。その理念は、様々な世代、多様な疾患を受け入れ、患者や家族が抱える不安を少しでも解消してもらおうという病院の思いとして随所に現れている。

エントランスでは、エスコートスタッフが来院者を笑顔のあいさつで出迎え、介助が必要な方には速やかに手を差しのべて院内へと誘導する。明るく広々とした待合ロビーは、開院時間と同時に一杯になるが、とまどいの様子を見かけると、スタッフがすぐに声をかけ案内をするため落ち着いた雰囲

気が保たれている。小児科などに描かれた絵本作家のイラストは、子どもの不安や退屈を和らげる役割を果たし、入院棟や食堂に大きく設けられた窓からは、雄大な那須連山を望むことができる。

「当院は、入院病床数が460床、外来には多い日で千名以上の患者さんが来られます。ほぼすべての診療科を網羅する大規模な病院ですが、地元の患者さん一人ひとりの健康不安に真摯に向き合い、最善の医療提供ができるよう、スタッフ一同心配りを重視した病院運営に努めています」と、北島院長は話す。



写真左: エスコートスタッフがエントランスで来院者を出迎える
写真中: 緩和ケア病棟の病床。晴れた日には窓いっぱいに那須連山が広がる
写真右: 小児科病棟のプレイルーム。地元の絵本作家いわむらかずお氏の代表作『14ひきシリーズ』のワンシーンが子供の等身大サイズで設置されている



那須赤十字病院は、県北エリア唯一の救命救急センターであるとともに、地域医療支援病院、がん診療連携拠点指定病院に認定されている。さらに、新生児専門のICU(集中治療室)などを備える周産期母子医療センターを備え、すべての世代に医療を提供する準備が整っている。

マイタウン・マイホスピタル

スタッフの安心が医療を支える

那須赤十字病院では、毎日医師・看護師をはじめ調理・清掃など多様な職種からなる800名以上のスタッフが力を尽くしている。人間の生命に関わり、秒単位で仕事をすすめ、高いレベルの接遇で患者と接して、気を緩めることなく勤務にあたっている。病院では、献身的に従事するスタッフが、ふと一息を付き、気持ち切り替えられるよう、院内動線を配慮している。エレベーター・通路は、スタッフと患者の移動ルートが被らないように分離した設計で、休憩スペースや食堂などもスタッフ専用のスペースを充分に確保した。

また、敷地内に24時間体制の託児所『ポケット』を設け医療スタッフの子育て支援を行っている。

「患者中心の医療でなければ真の医療ではないという当院の思想があります。ですから、スタッフが患者さんの前に出たときに高いホスピタリティで向き合えるように、病院側は可能な限りスタッフが心地よく働ける環境を用意したいと思っています」と、松山事務部長は話す。

那須赤十字病院には、自身が『ポケット』を卒園したという看護師も少なくない。また、働きつつ自分や家族が通院しているというスタッフも多く、それぞれが那須赤十字病院を「自分の病院」として愛着を持っていることが伺える。



写真上: 院内保育施設『ポケット』。大田原赤十字病院時代(昭和46年)に開設され、当時は医療従事者のワーキングサポートの先駆けとして話題を集めた
写真下: 病棟スタッフステーション。広々とした空間をスタッフが行き交う

鹿島建物管理概要

管理開始	2012年5月
管理内容	設備管理業務、清掃業務
管轄	新潟営業所
施設名称	那須赤十字病院
所在地	栃木県大田原市中田原1081-4
主要用途	医療施設
設計	横河建築設計事務所
施工	鹿島・那須土木・七浦特定JV
面積	延床面積 40,052.91m ² 敷地面積 69,146.09m ²
構造	RC造(一部S造)

主要設備概要	
電気設備	6.6kV 2回線受電
トランス容量	8,400kVA
非常用発電機	750kVA×2基、UPS 設備
衛生設備	上水受水槽 64.5m ³ ×2基 井水原水槽 240.0m ³ ×1基
	雜用水槽 55.0m ³ ×1基 貯湯槽 35.0m ³ ×1基 13.8m ³ ×1基
空調設備	ろ過設備、特殊排水設備(感染、透析、RI) 空調機(AHU, OHU)×59台、FCU×863台
熱源設備	HPFCU×194台、CFCU×138台 ターボ冷凍機 527kW×1基
昇降設備	水冷 HP チラー 1,582kW×1基 空冷 HP チラー 1,020kW×2基
エレベーター	エレベーター×17基
エスカレーター	エスカレーター×2基
ダムウェーター	ダムウェーター×2基
その他設備	免震装置 医療ガス設備 気送管搬送設備 ナースコール設備



「救う」という強い使命感

那須赤十字病院を含め日本全国の赤十字病院は、日本赤十字社の活動の一環として運営されている。各赤十字病院は、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を掲げている。医療スタッフのみならず働くスタッフ一人ひとりに浸透した使命感こそが赤十字病院の特徴となっている。



集中治療室 (ICU/CCU/SCU)
22床の救急病床に加え、集中治療室8床を備えている

救命救急 1秒でも早い救命を

那須赤十字病院は、栃木県より第三次救命救急センターに指定され、一刻を争う重篤な救急患者に対応するという任務を果たしてきた。

現在栃木県には、那須赤十字病院より北側に救命救急センターが無く、その存在意義は大きい。病院は任務遂行のため、2つのドクターヘリ用のヘリポートを設け、22床の各種集中治療用ベッド、高性能の医療設備機器を配備している。

設備面だけでなく、それらを運用し実際に患者の命を守るスタッフ体制も十分に配慮をしている。救命救急センターは、夜間でも専任の医師が2名以上常駐し、看護師・放射線技師・検査技師を含めたチームを組んで関係各所と連携した救急医療体制を築き上げている。

更に、1秒でも早い救命を行えるように、ドクターカーの運用を開始した。ドクターカーは、消防署から出動する救急車とは違い、病院から医師・看護師・スタッフが乗り込んで、向かった先の現場で救命措置を行う。

「救命救急措置が必要な患者さんにとっては『一分一秒』の時間が非常に重要です。より早く医療行為を開始できることが救命率に関わってきます。ドクターヘリの受け入れやドクターカーの出動を通して地理的な問題による医療格差をなくすことができるよう、今後もその使命を全うしていきたいと思っています」と、第一救急部長の長谷川医師は話す。



写真上：ドクターヘリ。山岳部など救急車やドクターカーの進入が難しい現場から救急患者を搬送する
写真下：ドクターカー。事故現場だけでなく救急車とのドッキングポイントなど、いち早く治療ができる場所に医師・看護師が出向きその場で初期診療を行う

災害医療 いかなる状況下においても

2011年に発生した東日本大震災。那須赤十字病院の前身である大田原赤十字病院は、震度6強の揺れによる影響を受けたが、すぐさま医療体制を立てなおし、さらに震災から6日後には、より深刻な被害を受けた被災地域へと救護班を出動させた。

現在、那須赤十字病院には、DMATと言われる災害派遣医療チームに加え、7名体制の災害救護班を3班組織している。

「災害救護班は希望すればだれでもなれるものではありません。被災地で円滑に救護活動ができるよう、3年間の研修を修了することを必須としています。当院では、研修後も定期的に訓練活動を実施し、常時出動できる体制を組織して

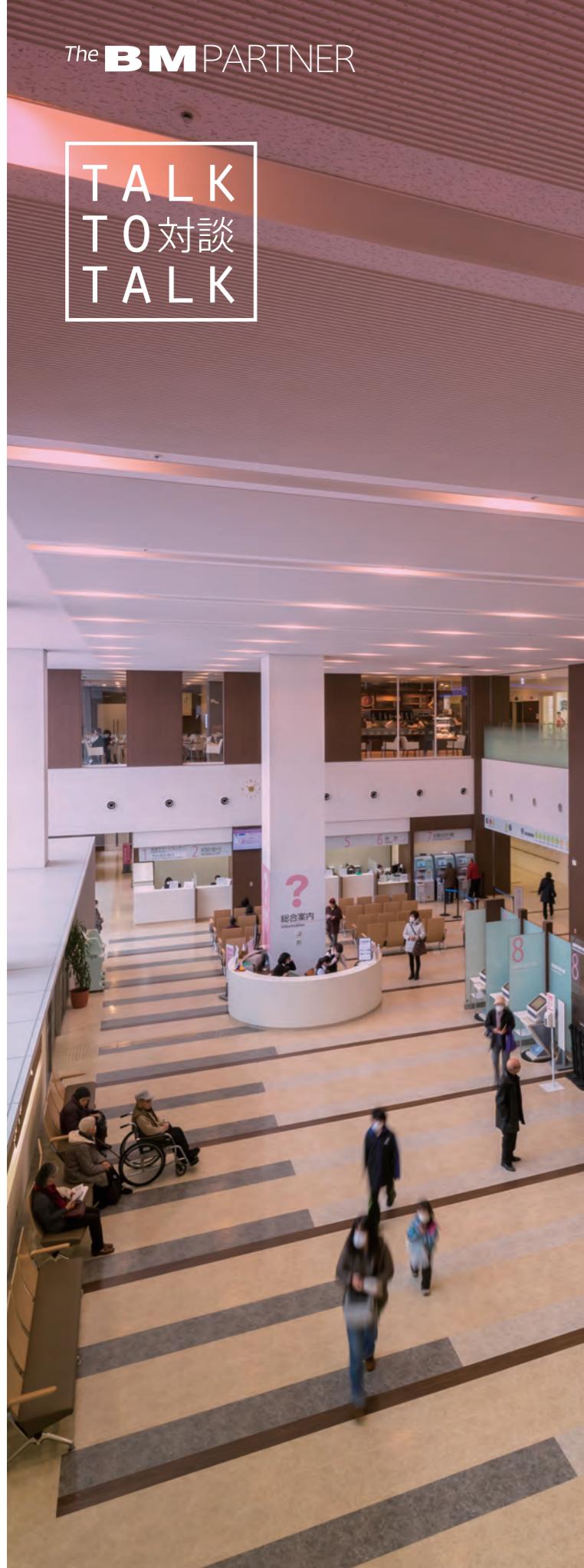
います」と、唐橋事務副部長は話す。那須赤十字病院で行われる訓練は、大規模な自然災害を想定したものばかりではない。集団食中毒や伝染病の大流行での患者の受け入れや感染管理の訓練なども実施されている。また、AEDは職種を問わず全スタッフが取扱いの訓練を受けている。

那須赤十字病院は、周到な訓練体制を構築し「いかなる状況下」でも使命が果たせるよう準備を整えている。



写真上：宮城県石巻市で医療活動を行う大田原赤十字病院の救護班（2011年3月19日）
写真中：駐車場に設置されている災害救護倉庫
写真下：7日間の電源供給が可能な非常用発電機

TALK
TO対談
TALK



常に患者さん目線の気配り

「思いやり」を表現する

大滝 まだまだインフルエンザが流行しているためか、今日多くの患者さんが来院されています。

事務副部長 唐橋様 そうですね。那須赤十字病院として稼働してから2年半が経過しましたが、移転時の想定よりも多くの患者さんに利用していただいている。

事務部長 松山様 1日千名以上の患者さんが来院されますが、鹿島建物の皆さんを含め、病院各所のスタッフの協力のもと、病院全体のオペレーションは、概ね順調だと感じています。

院長 北島様 「マイタウン・マイホスピタル」と掲げた理念の通り、当院で働くスタッフは皆、高い志を持って、患者さん中心の医療サービスを提供できるよう常に邁進してくれています。



進藤 病院という施設は、オフィスビルや学校とも異なり、建物利用者の多くが身体に何らかの不安を抱えた方であるため、私たち設備・清掃スタッフも、病院の先生や看護師さん達の姿勢に習い『思いやり』を持って業務に携わろうと日々努めています。

大滝 清掃スタッフの中には、「自分が患者だったらどういう清掃をしてほしいか」という視点で清掃するようになったという者もおります。

総務課長 磯様 接遇面でもスタッフ側が患者さんへの挨拶を欠かさないでいてくださるので、病院全体が明るい雰囲気となっていることも喜ばしいですね。

災害救助という使命を共に

施設課長 大塚様 今後は鹿島建物さんと次の災害が起きた時のオペレーションを共に訓練していく必要がありますね。

進藤 那須赤十字病院は、地域の災害拠点病院に指定されているので、有事においてその役割を果たす時には私たちも貢献しなければと思っています。

大塚様 病院建物は免震・耐震構造になりましたので心配はないと思いますが、大規模災害時に外から多くの患者さんが搬送されてくる事態に備えて、例えば車寄せの場所を利用してトリアージ※ができるか?ロビーで医療行為が開始できるか?など臨機応変な対応が可能かどうかを、施設側は問われると思うので、電源供給など最悪なケースを想定して共に対策を練っていかなければと思っています。

松山様 近年は異常気象も多く、この付近はあまり雪の心配がなかったはずですが、昨年は積雪による停電が発生し、市の下水ポンプが停止するなど、想定外のことが起きました。幸い大したことにはなりませんでしたが、病院としては想定外を限りなくゼロにしておきたいと思っています。

大滝 いつなんどきでも人命救助が優先される病院という施設において、どのレベ



清掃スタッフミーティング。病院清掃は、院内感染、清掃レベルなど注意点が多岐に渡るため綿密なコミュニケーションが必要となる

ルまで想定して対策をした方が良いか、引き続き一緒に検討させてください。

北島様 当院が担う使命は大きなものです。災害拠点病院、救命救急センターとして、患者さんに1秒でも早い医療処置を施すことが求められていますので、全スタッフ協力のもと万全の体制を築き、運用しなければなりません。みなさん、これからもうろしくお願いします。

※トリアージ 多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決定すること



写真左より

那須赤十字病院
事務部 施設課長 大塚 正義様

那須赤十字病院
事務部 事務部長 松山 昭夫様

那須赤十字病院
院長 北島 敏光様

那須赤十字病院
事務部 事務副部長 唐橋 正弘様

那須赤十字病院
事務部 総務課長 磯 紀夫様

鹿島建物総合管理(株)
新潟営業所 副所長 大滝 司

鹿島建物総合管理(株)
新潟営業所 那須赤十字病院管理事務所
統括所長 進藤 友和